

沖縄伝統空手の価値を多分野に広げる
専門家コミュニティ・サイトの構築・運営事業報告書

平成 28 年 3 月

沖縄伝統空手総合案内ビューロー

目 次

1. 事業の背景と目的	1
2. 事業の内容と成果	2
3. 今後の事業展開について	6
【参考資料】 情報発信及び受入サポート活動の実績	
（1）活動の目的	7
（2）活動の内容	7
（3）活動の成果	9

1. 事業の背景と目的

(1) 事業の背景

当団体「沖縄伝統空手総合案内ビューロー」の第一の活動目的は、沖縄の重要な文化遺産である伝統空手（以下、沖縄空手と呼ぶ）の価値を広く世界の空手愛好者に発信し、国際的な交流を拡大することにより、“空手発祥の地”としての世界的なステイタスの確立に貢献することです。

そのために2011年11月に専用ウェブサイト「Okinawa Traditional Karate Liaison Bureau（沖縄伝統空手総合案内ビューロー）」を開設し、①沖縄空手に関する行事予定や研修プログラム、動画映像等を世界に多言語（英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、日本語）で情報発信するとともに、②サイトを通じて空手の本場・沖縄での研修体験を希望する訪問客の受入サポート（ウェブサイトを通じた事前の相談対応、来沖時の研修道場の紹介及び通訳サービス、その他観光情報の提供など）を行ってきました。サイトの利用者は年々増加し、4年間(2012-2015)で10万人を超えます。また、サイトを通じた来沖客も年々増えており、フランス、アメリカ、オーストラリアなどから4年間(同期間)で計401人を受け入れサポートしています。その活動は県内外の雑誌や新聞、全国及び世界に向けたテレビ放送などでも紹介され、反響を呼んでいます。（当団体の活動内容については後段の参考資料をご覧ください。）

こうした活動を通じて、当団体は沖縄伝統空手に関わる世界の専門家人材とのつながりも広げつつあります。彼らは医療、教育、経済等さまざまな分野で活躍する専門家ですが、空手の有段者でもあり、沖縄伝統空手の価値に対する新しい見方やその応用可能性について有益な意見を示してくれるものと期待されます。

(2) 事業の目的

当団体の第二の活動目的は、沖縄伝統空手の価値が、教育や健康・医療など広く社会に応用され、観光など関連産業の付加価値を高めるような環境づくりをサポートすることで、沖縄の社会・経済の振興に資することです。

そのための一つの取組として、今回、沖縄伝統空手に関わる多分野の専門家が世界から参加する会員制のコミュニティ・サイト「Karate Expansion Forum（空手の価値拡大フォーラム）」を開設し、沖縄空手の価値に対する新しい見方やその応用可能性（どのような分野にどのような形で応用できるか）などについての専門的な意見を交換する場として運営します。また、そうした新しい知識を、上記情報発信サイト（沖縄伝統空手総合案内ビューロー）の利用者や広く沖縄県民にも共有化するために、フェイスブックと連動させます。空手の価値をさまざまな分野に広げていこうという機運を県内外で醸成するのが狙いです。

2. 事業の内容と成果

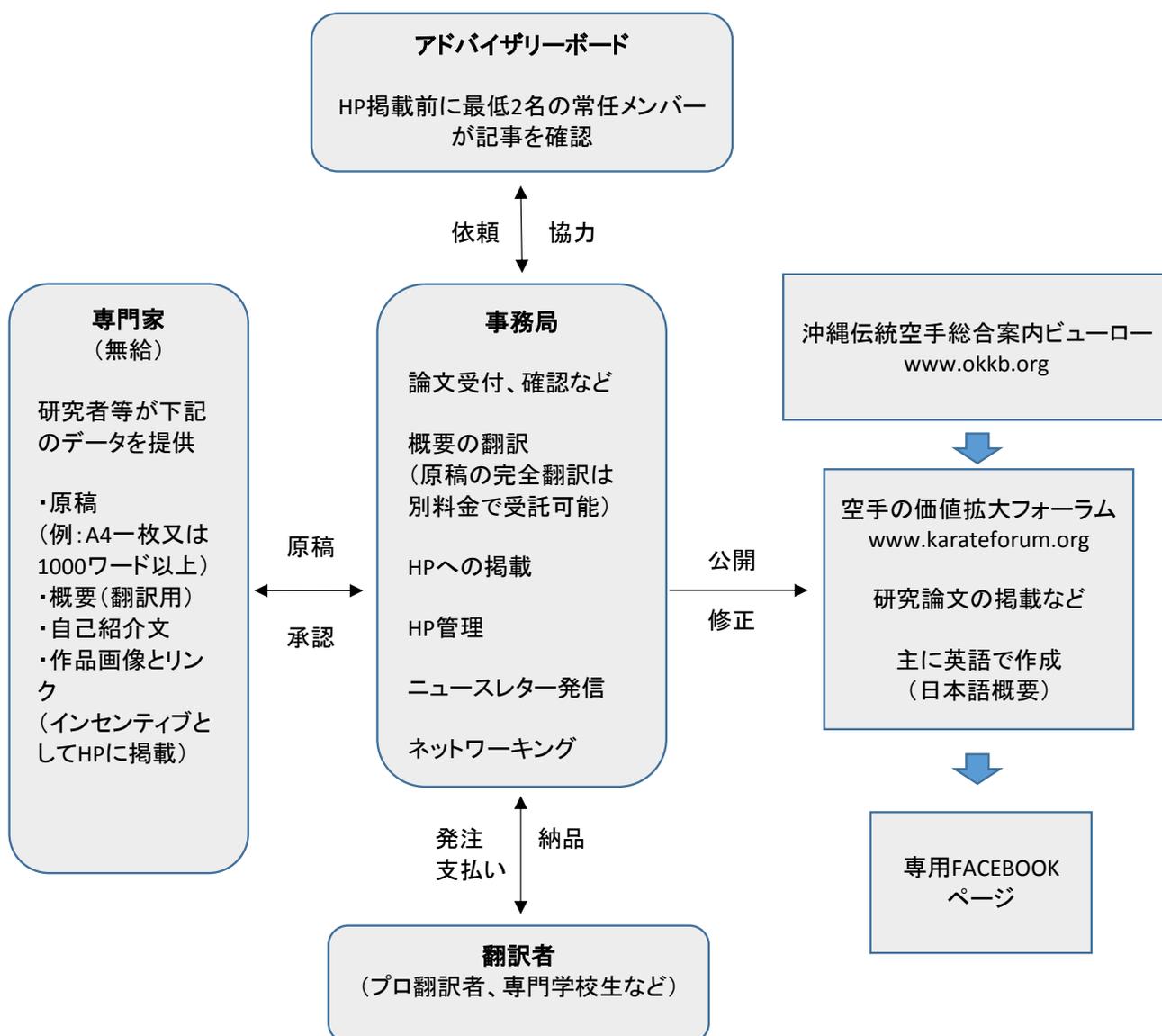
(1) 事業の内容

コミュニティ・サイトに参加する専門家は、当団体とつながりのある著名な研究者を創立メンバーとして、徐々にネットワークを広げていきます。意見交換の分野としては、医療・健康関係、教育関係、経済関係などを想定しています。

本年度はサイトを構築するとともに、創立メンバーへの参加打診及び原稿作成依頼を行い、2015年11月にサイトを開設して第一稿となる論文を掲載しました。以後、参加メンバーの拡充及び掲載論文の充実化を図り、その要旨を本報告書に取りまとめます。

なお、本年度は、サイト掲載前に記事を確認するアドバイザリーボードの設置はできておらず、事務局の確認により掲載しましたが、今後の参加メンバー拡充に伴い設置する予定です。

【コミュニティ・サイト「Karate Expansion Forum(空手の価値拡大フォーラム)」運営スキーム】



(2) 事業の成果

(ア) サイト構築

以下のトップページから展開するサイトを構築しました。



(イ) 掲載論文

カテゴリー：経済産業及び観光

論文名：沖縄におけるプレイスメイキング

論文名（英）：Placemaking in Okinawa

著者：ポール・バブラデリス博士

日本語論文（3734字）

閲覧 <http://www.karateforum.org/15?lang=ja>

英語論文（1490字）

閲覧 <http://www.karateforum.org/15>

要旨：

プレイスメイキングとは、魅力的な場所を創造するため、既存の強みを活かし、これを協力して開発する意図的な取り組みである。沖縄は既に魅力的な場所であり、世界中の数多の人々に愛されている。沖縄のプレイスメイキングを探求する取り組みは、幸運なことに多くの材料に恵まれている。しかし、その色鮮やかな歴史、豊富な自然美、温かい人と空手・古武道を結びつける取り組みが弱く、向上の余地がある。沖縄の県民、経済界、自治体プランナーの支援を得てそうした取り組みが始まった事実が注目される。

カテゴリー：医学

論文名：武道における「型」の有益性とは？

論文名（英）：Kata: Beneficial in Martial art?

著者：ラファエル・H・グティエレス医学博士

日本語論文（3664字）

閲覧 <http://www.karateforum.org/1?lang=ja>

英語論文（1464字）

閲覧：<http://www.karateforum.org/1>

要旨：

日本や沖縄の伝統的武道、スパルタのピューティア、そしてインドの武術舞踊などに見られる定型化された動きについて、その長い歴史が文献に記されている。多くの流派において、それらの動きこそが武術の真髄となっている。近代科学でも、「型」の実践が非常に価値の高いものであることを証明する膨大な証拠が示されている。「型」は、無意識の下、つまり無心とも言える状態で、身体を動かすことにもつながるだろう。その利点には、戦いや指導のみならず、心の有用性をも広げる可能性がある。

カテゴリー：教育

論文名：教育ツールとしての空手

論文名（英）：Karate as a tool for Education

著者：マイクル・クラーク氏

日本語論文（4735字）

閲覧：<http://www.karateforum.org/17?lang=ja>

英語論文（2318字）

閲覧：<http://www.karateforum.org/17>

要旨：

空手の本質は、空手家が長い年月をかけて稽古と内省を行い、成長することにより真の目的が明らかになることではないのだろうか。沖縄は空手の揺り籠であり、永遠にその精神的故郷であり続けるだろう。沖縄空手と古武道の精神が存続・繁栄し、今後もユニークな存在であり続けるには、スポーツや商業と距離を置く方法を模索しなければならない。私は教育を通してこれを達成するのが最善だと考える。空手をエンターテインメントではなく教育ツールとして活用することは夢のように思えるかもしれないが、私は可能だと信じているし、実際に個人レベルで、沖縄をはじめ世界各地の道場で実践されている。

カテゴリー：その他の分野

論文名：伝統的な武術の持つ利点

論文名（英）：The Positive Benefits of Traditional Martial Arts Training

著者：デミアン・マーティン氏

日本語論文（8451字）

閲覧：<http://www.karateforum.org/129?lang=ja>

英語論文（3674字）

閲覧：<http://www.karateforum.org/129>

要旨：

型を用いる伝統的訓練は競争が強調される近代的訓練に比べて心理社会的に良い効果をもたらすことが数々の研究により明らかになっている。筆者も指導者として多くの生徒たちが武術の訓練から効果的な恩恵を受けるのを見てきている。しかし、武術の訓練がこれらの利点をいかにして形成または達成するのかというメカニズムは未だはっきりしておらず、その研究がさらに行われることを望み、指導者たちにも、武術の指導をより効果的に行えるようさらに進歩する機会を作っていきたいと考えている。

カテゴリー：医学

論文名：武術の視点から見たウチナーグチを沖縄空手と古武道で使う意味

論文名（英）：A Martial Arts Perspective on Using Uchinaaguchi in Okinawan Karate and Kobudo

著者：サマンサ・メイ博士

日本語論文（4532字）

閲覧：<http://www.karateforum.org/155?lang=ja>

英語論文（4099字）

閲覧：<http://www.karateforum.org/155>

要旨：

ウチナーグチは消滅危機にある言語であり、あらゆる手段を用いて速やかに普及対策がとられるべきである。しかしウチナーグチは学校で教えられていないため、他の組織やコミュニティを通じた学習・使用機会が検討されなければならない。沖縄武術では正しい実践に必要な概念をウチナーグチでわかりやすく描く。武術を教える者がウチナーグチの格言を用いて人格の成長の強く促す場合は、沖縄が世界をどう考えるかを描く。沖縄でも海外からでも、武術家がウチナーグチを学ぶ関心がある場合、それがたとえ武術中心のウチナーグチでも、少なくとも未来の世代にウチナーグチ中心の武術知識を残す一助となることだろう。

カテゴリー：教育

論文名：沖縄の文化を極める空手大学院設立を

著者：藤村盛造 氏

日本語論文（7028字）

閲覧：公開準備中

要旨：

沖縄で始まった「手」が形を変え、武道として発展し、多くの指導者によって日本の空手道として世界へ広がり、KARATE スポーツとして発展して、現代に至ってオリンピック競技となって戻ってきた。この空手文化を日本文化として世界へ発信して行くホームグラウンドになるのは沖縄が一番相応しい。沖縄で KARATE の科学的な理論、世界に通用する哲学感が産み出されれば、空手道も同時に世界人を育てていくだろう。沖縄に一年を通して、長期、短期の KARATE 留学生や、その家族がリゾートを兼ねて集まってくることが想像できる。これらはソフト産業として沖縄の発展にも繋がりを、その分野開発も生まれ、沖縄の新たな文化度向上に役立つものと思う。

3. 今後の事業展開について

本年度の事業により、世界の専門家人材が参加するコミュニティ・サイトを構築し、議論の呼び水となるような論文を掲載することができました。その主な主張は次のように整理できます。

- ⇒ 「型」を用いる伝統的な空手の訓練法は、技術だけでなく、人格の成長を促す効果があり、それは数々の研究によって客観的事実として確かめられている。
- ⇒ 今後はその訓練法がなぜ人格の成長を促すのかというメカニズムを科学的に解明し、人材教育に活かしていくことが求められ、そのホームグラウンドとして沖縄が注目されている。
- ⇒ その学術的・教育的な拠点性を核として、世界から人が集まる魅力的な場所を創造していくためには、沖縄の県民、経済界及び自治体が協力関係を構築していくことが大前提となる。
- ⇒ それができれば、世界からの来訪者が本場の体験をするような様々なサービスが生み出され、ソフト産業として発展するとともに、文化度の向上にもつながる。

今後の取組としては、①より多くの専門家人材のサイトへの参加を促し、より多様な意見を取り入れていくとともに、②それを県民にフィードバックして議論を喚起し、協力関係を醸成していくことが重要で、次年度以降、引き続き取り組んでいきます。

(1) 活動の目的

沖縄の重要な文化遺産である伝統空手（以下、沖縄伝統空手と言う。）は、型を中心とした鍛錬の中で自己に向き合い、精神性と武道性（しなやかな心身の強さ、互いに敬う心）を養うという特徴を持ちます。当団体は、そうした沖縄伝統空手の価値を広く世界の空手愛好者に発信し、国際的な交流を拡大するとともに、その価値が、教育や健康・医療など広く社会に応用され、また、観光など関連産業の付加価値を高めるような環境づくりをサポートすることで、沖縄の社会・経済の振興に資することを目的とします。

(2) 活動の内容

近年、沖縄伝統空手の価値に対する関心が世界の空手愛好者の中で広がってきており、現に欧米諸国からの問合せが増えるなど、ニーズは顕在化してきています。しかし、以前は海外からの問合せを受け付ける窓口機能がなく、そうしたニーズに対応できていませんでした。そこで私たちは、2011年、沖縄県の「平成23年度文化芸術振興・産業創出支援事業」を活用して、沖縄伝統空手の情報を総合的に発信するウェブサイト「沖縄伝統空手総合案内ビューロー」を開設し、海外からの問合せを受けて県内道場との橋渡しをするプロジェクトを立ち上げました。2011年11月のホームページ公開以来、世界中から多数のアクセスがあり、その中から、沖縄での空手研修や旅行サポートを希望する問合せがいくつも寄せられています。沖縄伝統空手に対する国際的な関心が高まっているという確かな手応えをつかんでいます。

(ア) 活動の経緯

- 「沖縄伝統空手・ネットワーク形成支援実行委員会」の設立（2011年7月）
⇒ 2012年7月に「沖縄伝統空手総合案内ビューロー」に名称変更
- 沖縄伝統空手に関する世界への情報発信及び来沖外国人客の受入サポート体制の整備・運営
 - － 窓口電話の設置（2011年9月）
 - － 情報発信サイト「Okinawa Traditional Karate Liaison Bureau（沖縄伝統空手総合案内ビューロー）」の公開（2011年11月）
 - － ドキュメンタリー番組「空手の邦」の制作・配信（2012年3月）
（※以上、沖縄県「平成23年度文化芸術振興・産業創出支援事業」を活用）
- 県内関係機関との連携、国内外メディアの取材対応
 - － 沖縄観光コンベンションビューロー等との連携（海外メディア招致等）
 - － テレビ・新聞・雑誌等各種メディアへの取材対応
- 自主財源確保のため、情報発信サイト上での広告募集開始（2014年7月）

(イ) 情報発信サイトの概要

沖縄空手・古武道に関する情報を中立的な立場で発信することをモットーに、5ヶ国語でサイトを公開しています。基本となる英語と日本語のサイトは同じレベルになるようにコンテンツの充実を図っています。

【情報発信サイトの英語版と日本語版のイメージ】



上記：英語版のイメージ

右記：日本語版のイメージ

【情報発信サイトのコンテンツの紹介】

(3) 活動の成果

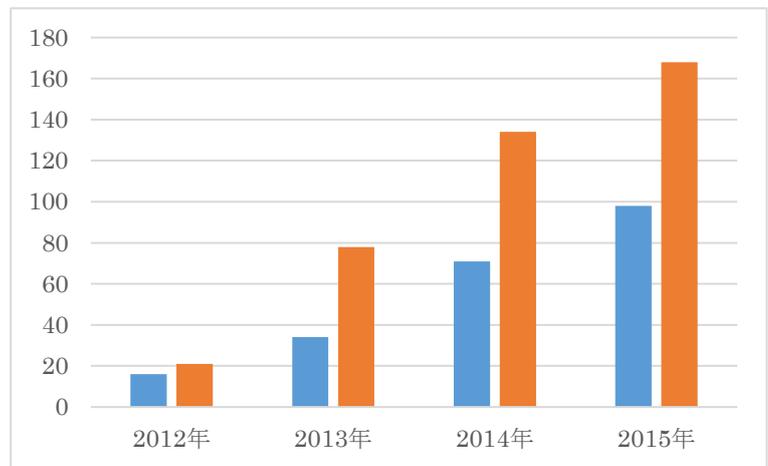
(ア) 情報発信

項目	初年度 (2012年)	第2年度 (2013年)	第3年度 (2014年)	第4年度 (2015年)
訪問数	40,859	59,954	65,782	64,907
個人ユーザー	21,877	37,850	42,514	44,734
ページビュー	142,153	184,959	186,342	175,274

(イ) 来沖外国人客の受入サポート

【受入実績】

	件数	人数
初年度 (2012年)	16	21
第2年度 (2013年)	34	78
第3年度 (2014年)	71	134
第3年度 (2015年)	98	168
合計	219	401



【受入客の国籍(2012年～2015年合計)】

	国	人数	割合		国	人数	割合
1	アメリカ(軍人含む)	78	19%	5	日本	23	6%
2	オーストラリア	55	14%	6	ドイツ	21	5%
3	フランス	54	13%	7	カナダ	21	5%
4	イタリア	29	7%		その他(17カ国)	64	31%

【受入協力の道場数】

- ・ 小林流：10件
- ・ 剛柔流：7件
- ・ 上地流：4件
- ・ 松林流：3件
- ・ 古武道：4件
- ・ その他：6件

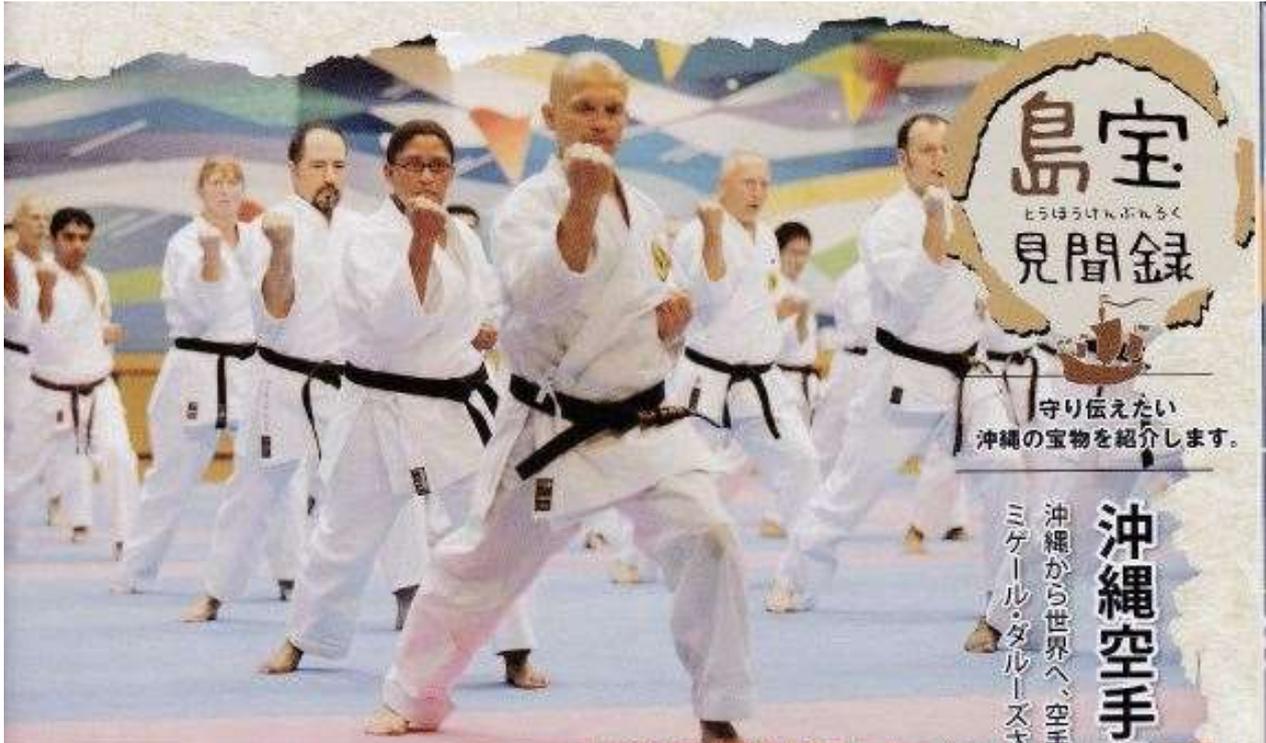
(ウ) メディアでの反響

【新聞・雑誌での掲載記事(一部)】

<p>生協雑誌 クリム 2015年8月号</p>	<p>美ら島 沖縄 2014年4月号</p>	<p>オーストラリア武道雑誌 2014年3月号</p>
		
<p>JTA 機内誌 Coral Way 2014年1・2月号</p>	<p>フランス武道格闘技雑誌 2012年4月～12月号</p>	<p>日本経済新聞・琉球新報 2011年11月29日</p>
		

【テレビ番組で活動の紹介(一部)】

<p>琉球放送年末特別番組 「ティーの源流を求めて」で活動紹介</p>	<p>NHK 沖縄 きんくる 2014年8月22日放送</p>
	
<p>NHK ワールド Journeys in JAPAN 2014年8月12日放送</p>	<p>NHK 沖縄 2013年11月18日放送 (12月に全国放送もあり)</p>
	



島宝

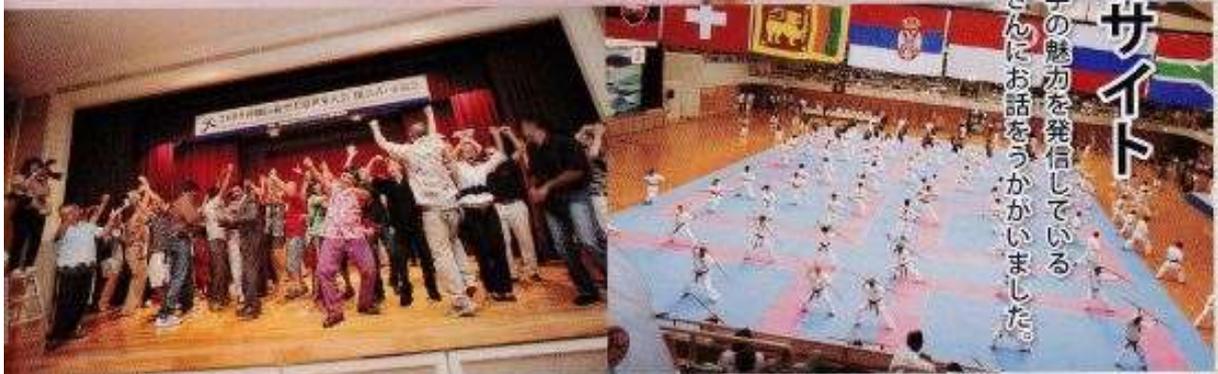
とうほうけんぶんとく

見聞録

守り伝えたい
沖縄の宝物を紹介します。

沖縄空手サイト

沖縄から世界へ、空手の魅力を発信している
ミゲール・ダルースさんにお話をうかがいました。



2009年に開催された沖縄伝統空手道世界大会、世界各国の空手家たちが沖縄に集まりました。



空手体験のほかにも名所などを案内。

**空手発祥の地に憧れ
多くの外国人が沖縄を訪れます**

現在、世界に数千万人の空手愛好家がいるといわれ、空手発祥の地、沖縄で空手を学びたいと来県する外国人の数は年々増えていきます。海外に向けて沖縄空手の情報を発信するウェブサイトを運営し、外国人の受け入れをサポートしている「沖縄伝統空手総合案内ビューロー」事務局長のミゲール・ダルースさんにお話をうかがいました。

「去年、空手を学びに沖縄を訪れた外国人は3,000人余りといわれています。海外に支部のある流派で学んでいる人は自分で道場を訪ねていけるかもしれませんが、どこに行けばいいのかわからないという人たちに、情報を発信して、受け入れ可能な道場を紹介しています」

グループで訪れる方には、道場での空手体験のほか、撮影観戦など空手関連の名所を巡ったり、食事会を開いたりなどアテンドも行うそうです。



10月25日「空手の日」には記念演武祭を開催

1936年10月25日、それまで「唐手」という文字が使われたりとあいまいだった表記が統一され、「空手」が公式な名称となりました。この日を特別な日として歴史にとどめ、伝統ある沖縄の空手のさらなる発展を願い、2005年、沖縄県議会で10月25日を「空手の日」とする意見を決議しました。2013年の空手の日には、首里城の御庭で記念演武祭(県・県議会・沖縄伝統空手振興会主催)が開催され、長指定無形文化財保持者をはじめ、大勢の空手家に参加して勇壮な演武を披露し、観客を魅了しました。「空手の日も、三輪の日やゴーヤーの日のように広く浸透して、もっと空手に関心が高まるきっかけになってほしいです」とダルースさん。空手発祥の地、沖縄から県内外に空手を広め、空手の魅力を発信する記念日となることを願っています。

ダルースさんはフランスのブルターニュ地方で生まれ、15歳のときに地元で空手との出会いがありました。「わたしに住んでいた町にはふたつの道場があって、家に近い方を選んだらたまたまそれが沖縄空手の道場だったので」。そこで8年間学んだダルースさんは、空手の本場沖縄に行ってみたくて、23歳の時に来沖しました。以来20年ずっと沖縄で暮らしています。好きな空手に携わりたいと思い、世界

沖縄空手の魅力は「自分を磨く」

です。沖縄伝統空手総合案内ビューローのサイトは、日本語、英語、フランス語、スペイン語の4カ国語で閲覧でき、沖縄空手の歴史や各流派の紹介、行事の案内、道場での稽古の様子や先生方のインタビューを収録したドキュメンタリー動画「空手の我」など情報満載の充実した内容となっています。

「空手は16世紀頃、沖縄にもとあった『ムロチー』という武術と中国武術が組み合わさって誕生したといわれています。白蓮手、那覇手、泊手の3つの系統にはじまり、長い間、門外不出の武術として伝えられてきました。1900年頃から一般に普及して、学校教育にも取り入れられるようになり、やがて県外に紹

大会で先生方の通訳をしたり、沖縄空手の情報紙「沖縄空手通信」の編集などを今も続けています。そして2011年に設立した沖縄伝統空手総合案内ビューローの事務局長として、積極的に情報を発信し、外国人の受け入れに尽力しています。ビューローが仲介した外国人の数は年々増え、2012年には21名、2013年には81名、今年は2月の時点ですでに80名を超える予約があるので、100名以上の受け入れは間違いなさそうです。

空手を通して
沖縄を好きになってほしい
外国の人はまだ、空手の本場は日

空手の指導者には人格者が多く、その人柄にも惹かれていくのだとダルースさんは話します。また、フランスでは空手をやっても50歳くらいでやめるケースが多いが、沖縄では年をとってもずっと続けている。生涯武道という魅力のひとつです。



沖縄に住んで20年になるというミゲール・ダルースさん。

介され、海外へと広がっていきました。沖縄の空手には強い伝統があります。日本本土から広がったいわゆる競技空手は相手を倒すため、相手に勝つためにやっていますが、沖縄の伝統空手は自分を磨くためのものだと思っています。戦うというよりも、自分の心を磨く、鍛錬というものが非常に大事。空手は、何があってもぶれない精神の強さ、心のあり方を教えてくれるものだと思うのです。人格を磨く、道を追求するのが空手の目的。昔は、稽古が終わると先生がお茶や酒を飲み交わしたそうです。先生から精神論など色々な話を聞く時間がとても大切だそうです。

沖縄の空手を愛するダルースさんの活動は着々と実を結んでいます。また、県では空手道会館(仮称)の建設も進めており、沖縄が世界に誇る文化の発展にますます期待が高まります。



4カ国語で沖縄空手の情報を発信している「沖縄伝統空手総合案内ビューロー」
www.okkb.org

本、東京だと思っている人も多いので、発祥の地、空手の本場である沖縄をもっとPRしていきたいと話します。「空手は世界中に広まっていて、世界のどこでも強い人はいます。でも、本場はひとつ。それが沖縄です。沖縄に来て、道場で稽古して、歴史や文化を感じてほしい。五感で空手を感じてほしいです。そして、空手を通して沖縄を知って、沖縄を好きになってほしいと思います。自身が沖縄も空手も大好きなので、その魅力を発信し、沖縄に来た外国人の人が満足できる滞在を送ってくれたら最高だと語るダルースさん。そして、今は学生が沖縄に来て学べる空手留学にも力を入れていきたいという企画を持っています。

観光新世紀

1000人 世界水準への道

◆11◆

空手(上)

「上段突き。1、2、3」。気迫のこもった声が体育館内を包み、「は



初来訪し、沖縄の空手道場を訪れて、種白打ちに打ち込むニューランド人のケリー・ウィルスさん(右)。24日、豊後村の古賀中学校体育館

「発祥の地」に憧れ

第一部 急伸する海外客

しつ、ばしつ」と組手の鈍い音や桐着の擦れる音が響く。豊後村の古賀中学校。県内の有段者らに交さってニューランドから沖縄を訪れたケリー・ウィルスさん(26)が日本語の掛け声で空手の稽古に励む。

ウィルスさんは今回初めて来県した。「空手は沖縄で誕生した。空手家にとって沖縄は憧れ。以前から来たいと思っていた」と声を弾ませた。空手に出合ったのは11歳のころ。いじめが

民間団体が集客後押し

きつかけだった。親が空手指導者を知り合いで学び始めた。それから15年。「本場の空手を感じたい」との思いが強まり、念願だった来県を実現させた。

年明けから28日まで15日間滞在した。空手の修行はもとより、県内の各城跡などを観光した。「空手以外にも文化や食が魅力的。人も優しい。また必ず来る」。ウィルスさんは、空手を通じて憧れた沖縄の魅力に満足げだった。

県内空手界の関係者によると、ウィルスさんのように、来県を求める外国人は多い。これらのニーズを後押ししているのが、民間団体「沖縄伝統空手総合案内ビューロー」だ。2011年に設立し

海外から来県を希望する空手愛好家や関係者を支援する。13年の取り組みでは、アルゼンチン、イタリア、インド、シンガポール、ロシアなど世界16カ国、81人を仲介し、県内の各道場を

的に来県需要があった。しかし、受け入れ経路は海外に支部がある流派や個人的な活動に限られていた。同ビューローはホームページを通じて英語やフランス語など海外4カ国語で情報を発信する。英語、フランス語、スペイン語でのメール問い合わせに対応し、道場の手配や歓迎、現地ツアーなどのサービスも展開。需要に

えるは組みの提供で、来県の高さげづくりや誘致につなげている。

紹介した。ウィルスさんも同ビューローを通じて来県した一人。

同ビューローのミゲル・ダルメズ事務局長は「希望者は次第に増えていく」と説明。実際に紹介した人数は12年の20人から13年は大幅に増え、14年も既に約74人を予定している。13年は国際セミナー開催などもあったため、関係者は全体では海外から約3千人が訪れたとみている。

一方で、ダルメズ事務局長は「各道場で指導を受けたいニーズが高い」とし、それぞれ個々の道場が対応する現在の受け入れ態勢では不安定で、来県増加に伴うミスマッチの懸念もあるという。海外の空手愛好家の満足度をどう高めていくか。他にはない「発祥の地」という魅力を生かす取り組みや、その可能性が注目される。

(「観光新世紀」取材班・謝花史哲) (水・金曜掲載)